

＜研究成果の紹介＞

トマトすすかび病の発生と葉かび病抵抗性品種

農業研究部 循環機能開発研究課

1. 成果の内容

トマトすすかび病は、1951年に山田によって病原菌 (*Pseudocercospora fuligena*)、発生生態、生理的諸性質、中部地方の被害について報告されましたが、その後は被害が問題になる病害ではありませんでした。しかし、近年トマトすすかび病の発生・被害が三重県をはじめとして全国的に問題になっています。トマトすすかび病は葉かび病と葉裏の病徴が酷似しているため、肉眼での判別が難しい病気ですが、光学顕微鏡で分生子を形態観察すれば容易に判別できます (図1)。

トマトすすかび病は病徴からみて、はじめは葉かび病と間違えられ、葉かび病抵抗性品種の栽培圃場で多く認められることから、その原因を明らかにするため、すすかび病の発生と葉かび病抵抗性品種の関係を調べました。

その結果、トマトすすかび病は、葉かび病

抵抗性品種の「感激73」、「桃太郎コルト」、「桃太郎ファイト」、「桃太郎ヨーク」、「ごほうび」、「麗容」および抵抗性を持たない品種「ハウス桃太郎」、「桃太郎8」、「桃太郎J」、「千果」、「ココ」のいずれもほぼ同程度発病しました。このことから、トマトすすかび病は、葉かび病抵抗性の有無に関係なく発病することが明らかになりました (図2)。

2. 技術の適用効果と適用範囲

トマト栽培農家および指導者を対象とします。

3. 普及・利用上の問題点

葉かび病抵抗性品種の栽培圃場で、葉かび病に酷似した症状が認められた場合、すすかび病発生のおそれがあります。現在トマトすすかび病を対象とした農薬の登録取得に向けて取り組んでいます。

(黒田 克利)



図1 トマトすすかび病および葉かび病の葉裏の菌そうと病原菌

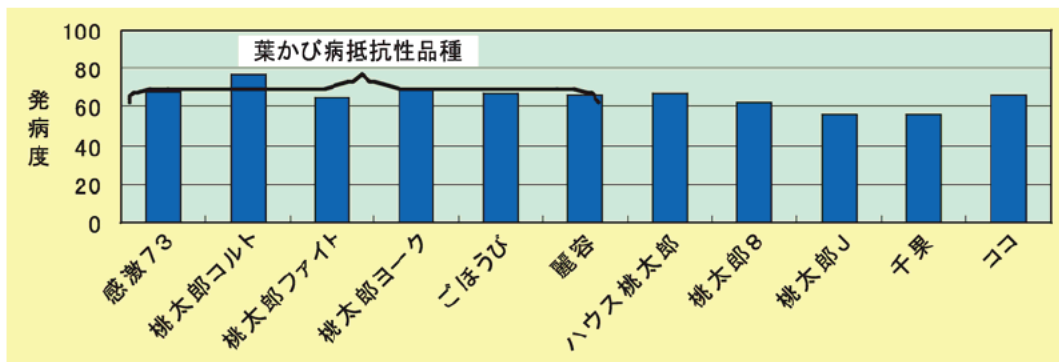


図2 トマト品種の葉かび病抵抗性の有無とすすかび病の発病